声なき感染症を知る

◆31◆

12月1日は「世界エイズデー」

予防から患者理解まで

各立場で具体的行動を

県感染症情報センター

▽世界エイズデーとは

「世界エイズデー」をご存じでしょうか。世界エイズデーは、世界レベルでのエイズのまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を目的に、ＷＨＯ（世界保健機関）が１９８８年に制定したもので、毎年12月１日を中心に、世界各国でエイズに関する啓発活動が行われています。

▽ＨＩＶ感染とエイズ

エイズ（後天性免疫不全症候群）は、ＨＩＶ（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することによって起こる病気です。ＨＩＶは、免疫の仕組みの中心である白血球などに感染し、身体を病気から守っている免疫力を低下させていきます。

自覚症状のない時期（無症候期）が数年続き、さらに進行すると、病気とたたかう抵抗力（免疫）が低下し、本来なら自分の力で抑えることのできる病気（日和見〈ひよりみ〉感染症と呼ばれる）などを発症するようになってしまいます。

このようにして、抵抗力が落ちることで発症する疾患のうち、代表的な23の指標となる疾患が決められており、これらを発症した時点でエイズ発症と診断されます。

エイズの原因ウイルスであるＨＩＶに感染した人を、「ＨＩＶ陽性者」と呼びます。現在では、様々（さまざま）な治療薬が開発されているため、ＨＩＶ陽性者のエイズ発症を予防することが可能です。ただし、ウイルスを体内から完全に排除する治療法は、まだ開発されていません。

▽ＨＩＶ感染者とエイズ患者の発生動向

近年、ＨＩＶ感染者・エイズ患者新規報告数は年間１５００件程度で推移しており、また、累計報告数も２万５千件を超えるなど、依然として予断を許さない状況です。

平成27年の１年間における新規ＨＩＶ感染者報告数は１００６件（過去８位）、感染に気づかずにエイズを発症して報告された新規エイズ患者報告数は４２８件（過去８位）でした。合計で、１年間に１４３４人（過去９位）が新規にＨＩＶ感染したということです。新規エイズ患者の割合は、このところ全体の約３割で推移しています。

▽今年の世界エイズデーのテーマ

今年の世界エイズデーのキャンペーンテーマは、「知っていても、ＡＩＤＳ　ＩＳ　ＮＯＴ　ＯＶＥＲ」です。

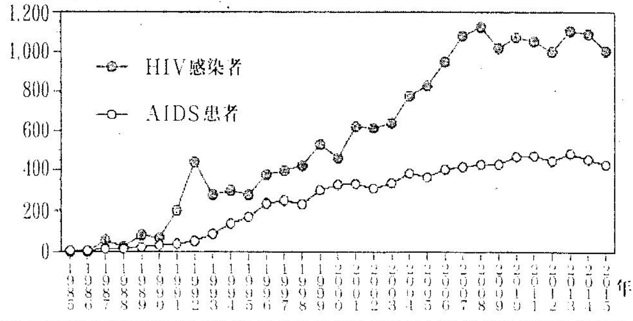
「ＨＩＶ感染予防に関する知識」を知っていても、分かっていても、具体的な行動が伴わなければ、効果的なＨＩＶ感染予防にはつながりません。保健所などでは、無料・匿名で検査を受けることができます。特に12月１日の前後には、休日にも検査が受けられるなど、相談・検査体制を強化しています。

エイズを発症する前にＨＩＶ感染を把握することは、周囲に感染を広げないために、また治療の負担を軽くするためにも、非常に重要です。

医学研究の進展、治療法の進歩によって、ＨＩＶ陽性者が長く生きていくことが期待できるようになりました。そのため、職場や学校、医療機関など生活の様々な場所で、ＨＩＶ／エイズに対する差別・偏見の解消等を図り、ＨＩＶ陽性者が社会で安心して生活できるよう、環境を整えることが一層重要となっています。それぞれの立場から、「予防、検査、治療、支援、理解」という具体的な行動をとることが求められています。

（県感染症情報センター）

＝第２木曜日付掲載＝



ＨＩＶ感染者およびＡＩＤＳ患者の年次推移、１９８５〜２０１５年（厚生労働省エイズ動向委員会・平成27年エイズ発生動向年報）